

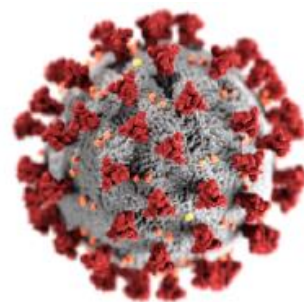
OBONソサエティ

世界的感染大流行

コロナウイルスは世界をひっくり返し、沢山の業者が営業の中止を余儀なくされました。私達OBONソサエティはお陰様で大きな変化も無く活動を続けています。

OBONソサエティのメンバーは集まって一緒に活動することは無いので、活動の中核拠点はありません。様々な技能を必要とする私達の活動は何時間もの時差を越えて世界に広がっています。実際の所、過去6年間私達の為に活動してくれながら、一度も直接会っていないメンバーもいます。

こんな珍しいタイプの組織であるOBONソサエティは、実際には現在の世界的感染大流行の影響を受けていないと言えます。私達は荷物を受け取り、中身の遺留品を調べて情報を捜索班へ送ります。すると捜索班は、ご遺族の捜索を始め、遺留品が返還されます。この活動の内容は昨年の中頃とほとんど変わらず、私達は全く恵まれていると言えます。



しかしながら、コロナ感染は日本でのご遺品返還式の開催を遅らせています。多くの人々が集まる代わりに、遺留品は直接ご遺族へ届けられます。また、この先のOBONソサエティ理事会も、ビデオ会議となります。

ここ2～3日の間の問い合わせから推測するに、この自主隔離期間中に押し入れの中を掃除し品物を整理しているのでしょうか。毎日、沢山の問い合わせをいただいています。

昨日、私は"ジョン"さんから、自分の父親が26年前に譲り受けたという旗の写真が添えられたEメールを受け取りました。彼はこの旗をご遺族へお返ししたいと言います。

我々の調査メンバーは一目見て、この旗は大阪付近の学校で作られたものではないかと狙いを付けました。ジョン氏が旗を郵送してきたら、より詳しい調査に入ることになります。



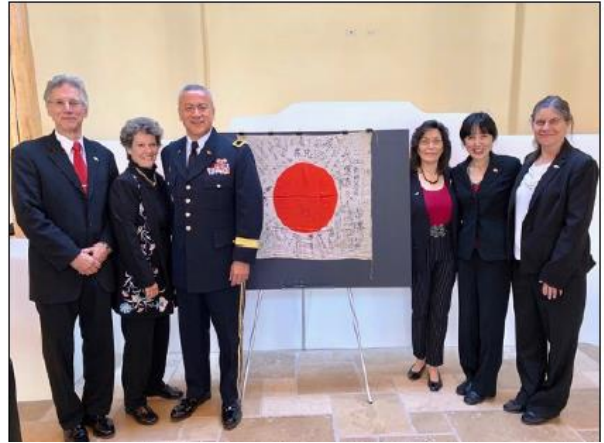
同日、私達はシェーンさんからも問い合わせを受けました。元米軍海兵隊員のおじいさんが戦地から持ち帰ったという2本の日本刀のことでした。痛ましい火災でシェーンさんの家は燃えてしまい、あとに残ったこの刀剣を、OBONソサエティに日本のご遺族へ返還して欲しい、というのでした。

注：名前や住所の記載が無ければ、OBONソサエティは日本のご遺族を探し出すことは出来ません。

善い行いが連鎖する

去年の10月、OBONソサエティはニューメキシコ州のサンタフェで行われた特別な式典に招待されました。戦後、国立警備隊博物館に長く展示されていた寄せ書き日の丸が外され、日本のご遺族へ返還するためにOBONソサエティに正式に譲渡されたのです。地元紙は今までに例を見ないこのような平和と和解の表し方について特集を組んで報道しました。

このニュースは、サンタフェ在住で日章旗を所有していたリー氏を駆り立てました。彼は旗をOBONソサエティに送り、その後、私達は運良くご遺族発見に至りました。リー氏はその知らせに大変喜び、旗と共に日本へ送って欲しいと、以下に添えた手紙を書き、私達に託しました。



2019年10月ニューメキシコ国立警備隊はバターン・コレヒドール防衛兵の会の協力のもと、日章旗をOBONソサエティに譲渡しました。

(写真左から右へ) レックス・ジーク、ジャン・トンプソン：バターン・コレヒドール米防衛兵の会会長、ケネス・ナバ少将、マーガレット・ガルシア：バターン死の行進の生還者の娘、ジーク敬子、ベスニー・グレン：OBONソサエティ役員



ウィリスF. リー氏の日章旗

ウィリスF. リー

サンタフェ、ニューメキシコ 87506

2020年3月20日

寄せ書き日の丸の継承者の方々とOBONソサエティ様

私は1963年に継父からこの旗を譲り受けました。私はその時15歳でした。継父はどのようにしてその旗を入手したのかを語りはしませんでした。まだ若かったし、その旗をどうしたらよいか見当もつきませんでした。私はそれがとても重要な意味を持つ家宝で、正当な継承者へ返すべきものだと思っていました。旗はしっかりとした箱に折りたたんで入れられ、そのまま何十年もしまっていました。

2019年10月27日、私の町の地元紙「サンタフェ ニューメキシカン」の第一面に、「OBONソサエティの好意により、ニューメキシコ軍事博物館が、寄せ書き日の丸を帰還させるためにOBONソサエティへ譲渡した」という記事を読みました。私は、今では真の友好国となっている2つの国の関係を、名誉と敬意を込めて体現した出来事だと思いました。そして私はついに、旗を確実に個人へ届けてもらえる方法を知ったのです。それからすぐに旗を出してきて、OBONソサエティへ送る準備に取り掛かりました。彼らは、まもなくご遺族を見つけ出してくれたのです。

大変長い間この旗を所持していたことが悔やまれます。旗の返還によりご遺族の皆様のお心が癒されますようにお祈り申し上げます。

敬意と愛を込めて

ウィリス F. リー